

# Solaris 10 11/06 インストールガイド (基本編)



Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 819-7797-10  
2006年11月

Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。それらに限定されるものではありません。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn8 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright(C) OMRON Co., Ltd. 1995-2006. All Rights Reserved. Copyright(C) OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2006 All Rights Reserved.

「ATOK for Solaris」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK for Solaris」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK」および「推測変換」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK for Solaris」に添付するフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

「ATOK for Solaris」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となることがあります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としている国や、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものへの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris 10 11/06 Installation Guide: Basic Installations

Part No: 819-6394-10

Revision A

# 目次

---

はじめに .....	5
<b>1 CD または DVD メディアによる Solaris のインストールの計画 (作業) .....</b>	<b>9</b>
システム要件と推奨事項 .....	9
Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラの要件 .....	10
ディスク容量に関する一般的な計画と推奨事項 .....	12
ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量 .....	14
インストール用のチェックリスト .....	16
インストールに関する詳細情報の参照先 .....	25
<b>2 Solaris インストールプログラムによるインストール (作業) .....</b>	<b>27</b>
SPARC: Solaris インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード .....	27
▼ SPARC: Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法 .....	27
x86: Solaris インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード .....	36
▼ x86: GRUB 付き Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法 .....	36
索引 .....	51



# はじめに

---

このマニュアルでは、CD または DVD メディアを使用して Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) をネットワークに接続されていないシステムにインストールする方法について説明します。

このマニュアルには、システムハードウェアや周辺装置を設定する方法は記載されていません。

---

注 - このリリースでは、SPARC® および x86 系列のプロセッサアーキテクチャー (UltraSPARC®, SPARC64, AMD64, Pentium, Xeon EM64T) を使用するシステムをサポートします。サポートされるシステムについては、Solaris 10 Hardware Compatibility List (<http://www.sun.com/bigadmin/hcl>) を参照してください。本書では、プラットフォームにより実装が異なる場合は、それを特記します。

本書の x86 に関連する用語については、以下を参照してください。

- 「x86」は、64 ビットおよび 32 ビットの x86 互換製品系列を指します。
- 「x64」は、AMD64 または EM64T システムに関する 64 ビット特有の情報を指します。
- 「32 ビット x86」は、x86 をベースとするシステムに関する 32 ビット特有の情報を指します。

サポートされるシステムについては、Solaris 10 Hardware Compatibility List を参照してください。

---

## 対象読者

このマニュアルは、Solaris OS のインストールを担当するシステム管理者を対象としています。このマニュアルでは、Solaris のインストールやアップグレードをとくときに行うシステム管理者向けに、Solaris のインストールに関する基本的な情報を提供します。

Solaris のインストールに関するより詳細な情報については、6 ページの「[関連マニュアル](#)」を参照して、その情報が記載されているマニュアルを確認してください。

## 関連マニュアル

表 P-1 に、Solaris ソフトウェアをインストールする際に必要な関連情報の一覧を示します。

表 P-1 関連情報

インフォメーション	説明
『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』	Solaris オペレーティングシステムのインストールやアップグレードの計画について説明します。すべての Solaris インストールプログラムの概要が解説されています。インストールに関連する次の各機能の概要も解説されています。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ オープンソースのブートローダーである GRUB</li> <li>■ Solaris ゾーン区分技術</li> <li>■ インストール時に作成可能な RAID-1 ボリューム</li> </ul>
『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』	ローカルエリアネットワークや広域ネットワークを介して Solaris のリモートインストールを実行する方法が解説されています。
『Solaris 10 11/06 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』	Solaris Live Upgrade を使用して新しいブート環境を作成およびアップグレードする方法が解説されています。
『Solaris 10 11/06 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』	自動的なカスタム JumpStart™ インストールを実行するために必要なファイルとディレクトリを作成する方法が解説されています。
『Solaris 10 11/06 インストールガイド (Solaris フラッシュアーカイブの作成とインストール)』	Solaris フラッシュアーカイブの作成方法と、Solaris フラッシュアーカイブを使って複数のシステムへ Solaris OS をインストールする方法について説明します。
『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』	システムファイルのバックアップ方法など、システム管理タスクについて解説されています。
『Solaris 10 ご使用にあたって』	Solaris リリースに関する、バグ、既知の問題、提供が中止されたソフトウェア、パッチなどが解説されています。
SPARC: 『Solaris Sun ハードウェアマニュアル』 ( <a href="http://docs.sun.com">http://docs.sun.com</a> )	サポート対象のハードウェアについて解説されています。
『Solaris 10 11/06 パッケージリスト』	Solaris 10 OS に含まれるパッケージの一覧と説明です。
x86: <a href="#">Solaris Hardware Compatibility List</a>	サポート対象ハードウェアの情報とデバイス構成の詳細が解説されています。

# マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトでは、次のサービスに関する情報も提供しています。

- マニュアル (<http://jp.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://jp.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://jp.sun.com/training/>)

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用しません。

表 P-2 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。  ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。  system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% <b>su</b> password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。  この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% <b>grep</b> '^#define \  <b>XV_VERSION_STRING</b> '

コード例は次のように表示されます。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

## プラットフォームによる規則

SPARC システムと x86 システムには、キーボードとマウスに関する次のような規則が適用されます。

- このマニュアル中で「Return キー」と表記しているキーは、キーボードによっては「Enter キー」という名前になっていることがあります。
- CDE のデフォルト設定では、3 ボタンマウスの各ボタンは、左から右へ「セレクト」、「アジャスト」、「メニュー」に対応しています。たとえば、「マウスの左ボタンをクリック」と記述する代わりに、「セレクトボタンをクリック」と記述されることがあります。あるいは、マウスボタン 1、マウスボタン 2、マウスボタン 3 と呼ばれることもあります。
- デフォルト設定では、2 ボタンマウスの各ボタンは、左から右へ「セレクト」、「メニュー」に対応しています。アジャストボタンの機能を使用するには、キーボードの Shift キーを押しながらセレクトボタンを押します (Shift キー + セレクト)。



# CDまたはDVDメディアによる Solaris のインストールの計画(作業)

---

このマニュアルでは、CDまたはDVDメディアを使用して Solaris™ オペレーティングシステム (Solaris OS) をネットワークに接続されていないシステムにインストールする方法について説明します。

この章では、インストールを正常に完了するための準備について説明します。この章に含まれる節は次のとおりです。それに続く章では、SPARC システムおよび x86 システムでの各インストール手順について説明します。

- 9 ページの「システム要件と推奨事項」

この節では、Solaris OS をインストールするためのシステム要件について説明します。ディスク容量を計画するための一般的なガイドラインについても説明します。

- 16 ページの「インストール用のチェックリスト」

この節には、システムのインストールに必要な情報の収集に役立つチェックリストが含まれています。

- 25 ページの「インストールに関する詳細情報の参照先」

---

注- このマニュアルでは「スライス」という用語を使用しますが、一部の Solaris のマニュアルとプログラムでは、スライスのことを「パーティション」と呼んでいる場合があります。混同を避けるため、このマニュアルでは、fdisk パーティション (x86 版 Solaris でのみサポート) と、Solaris fdisk パーティション内の分割とを区別しています。前者を「スライス」、後者を「パーティション」と呼ぶことがあります。

---

## システム要件と推奨事項

次の表に、Solaris OS をインストールするための基本的なシステム要件の一覧を示します。

表 1-1 SPARC: メモリー、スワップ、およびプロセッサの推奨事項

SPARC システム	サイズ
インストールやアップグレードに必要なメモリー	推奨サイズは 512M バイトです。最小サイズは 128 M バイトです。 注- オプションのインストール機能の中には、メモリーが十分でないと有効にできないものもあります。たとえば、DVD からインストールする場合にメモリーが不足していると、Solaris インストールプログラムの GUI ではなくテキストインストーラが使用されます。メモリー要件の詳細については、表 1-3 を参照してください。
スワップ領域	デフォルトのサイズは 512M バイトです。 注- スワップ領域のカスタマイズが必要になる場合もあります。スワップ領域は、システムのハードディスクのサイズに基づいて決まります。
プロセッサ要件	200 MHz 以上のプロセッサが必要です。

表 1-2 x86: メモリー、スワップ、およびプロセッサの推奨事項

x86 システム	サイズ
インストールやアップグレードに必要なメモリー	推奨サイズは 512M バイトです。最小サイズは 256M バイトです。 注- オプションのインストール機能の中には、メモリーが十分でないと有効にできないものもあります。たとえば、DVD からインストールする場合にメモリーが不足していると、Solaris インストールプログラムの GUI ではなくテキストインストーラが使用されます。メモリー要件の詳細については、表 1-3 を参照してください。
スワップ領域	デフォルトのサイズは 512M バイトです。 注- スワップ領域のカスタマイズが必要になる場合もあります。スワップ領域は、システムのハードディスクのサイズに基づいて決まります。
プロセッサ要件	120 MHz 以上のプロセッサが必要です。ハードウェアによる浮動小数点サポートが必要です。

## Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラの要件

Solaris 10 Operating System DVD または Solaris 10 SOFTWARE - 1 CD に入っている Solaris インストールプログラムは、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) で、あるいは対話式テキストインストーラとしてデスクトップセッションまたはコンソールセッションで、実行できます。x86 システムの場合、Solaris インストールプログラムに Solaris Device Configuration Assistant (デバイス構成用補助) が含まれています。

- GUI - Solaris インストール GUI には、ウィンドウ、プルダウンメニュー、ボタン、スクロールバー、アイコン画像などがあり、これらを使ってインストールプログラムを操作できます。GUI には、ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブか

CD-ROM ドライブ、またはネットワーク接続、およびビデオアダプタ、キーボード、モニター、十分なメモリーが必要です。これらのメモリー要件の詳細については、表 1-3 および表 1-4 を参照してください。

- テキストインストーラ - Solaris の対話式テキストインストーラを使用すると、端末またはコンソールウィンドウに情報を入力してインストールプログラムを操作できます。テキストインストーラは、ウィンドウ表示環境のデスクトップセッションか、コンソールセッションで実行できます。テキストインストーラには、ローカルまたはリモートの DVD-ROM ドライブか CD-ROM ドライブ、またはネットワーク接続、およびキーボードとモニターが必要です。Solaris インストールテキストインストーラを `tip` コマンドで実行できます。詳細は、`tip(1)` のマニュアルページを参照してください。

ソフトウェアをインストールするときに、GUI を使用する方法、ウィンドウ表示環境を使用する方法、またはウィンドウ表示環境を使用しない方法を選択できます。十分なメモリーがある場合は、デフォルトで GUI が表示されます。GUI を表示できるだけの十分なメモリーがない場合は、デフォルトでその他の環境が表示されます。`nowin` ブートオプションまたは `text` ブートオプションを指定すると、デフォルトよりも優先されます。ただし、システムのメモリー量による制限や、リモートでインストールする場合の制限があります。また、ビデオアダプタが検出されない場合、Solaris インストールプログラムは自動的にコンソールベースの環境で表示されます。表 1-3 および表 1-4 に、これらの環境とそれを表示するためのメモリー要件を示します。

表 1-3 SPARC: 表示オプションとメモリー要件

SPARC: メモリー	インストールの種類	説明
64 ~ 511M バイト	テキストベース	画像は含まれませんが、ウィンドウとほかのウィンドウを開く機能が提供されます。  text ブートオプションを使用している場合でシステムに十分なメモリーがあるときは、ウィンドウ表示環境でインストールされます。tip ラインを介してリモートでインストールする場合や、nowin ブートオプションを使用してインストールする場合は、コンソールベースのインストールに限定されます。
512M バイト以上	GUI ベース	ウィンドウ、プルダウンメニュー、ボタン、スクロールバー、およびアイコン画像が提供されます。

表 1-4 x86: 表示オプションとメモリー要件

x86: メモリー	インストールの種類	説明
256 ~ 511M バイト	テキストベース	画像は含まれませんが、ウィンドウとほかのウィンドウを開く機能が提供されます。  text ブートオプションを使用している場合でシステムに十分なメモリーがあるときは、ウィンドウ表示環境でインストールされます。tip ラインを介してリモートでインストールする場合や、nowin ブートオプションを使用してインストールする場合は、コンソールベースのインストールに限定されます。
512M バイト	GUI ベース	ウィンドウ、プルダウンメニュー、ボタン、スクロールバー、およびアイコン画像が提供されます。

選択を入力するか、プロンプトに特別なコマンドを入力することで、インストールに使用するインストーラを指定することもできます。手順については、[第 2 章](#)を参照してください。

## ディスク容量に関する一般的な計画と推奨事項

ディスク容量の計画のたて方は、ユーザーによって異なります。必要に応じて、次の条件に基づいて割り当てる容量を考慮に入れてください。

表 1-5 ディスク容量とスワップ領域に関する一般的な計画

容量割り当ての条件	説明
ファイルシステム	ファイルシステムを割り当てる場合には、将来の Solaris バージョンにアップグレードするときのために、現在必要な容量よりも 30% 多く割り当ててください。  デフォルトでは、ルート(/)とスワップ領域(/swap)だけが作成されます。OS サービスのためにディスク容量が割り当てられたときは、/export ディレクトリも作成されず。Solaris のメジャーリリースにアップグレードする場合は、システムのスライスを切り直すか、インストール時に必要な容量の 2 倍を割り当てる必要があります。Solaris Update にアップグレードする場合は、将来のアップグレードに備えて余分のディスク容量を追加しておけば、システムのスライスを切り直す手間を軽減できます。Solaris Update リリースにアップグレードするたびに、直前のリリースに比べておよそ 10% のディスク容量が追加で必要になります。ファイルシステムごとに 30% のディスク容量を追加しておく、Solaris Update を数回追加できます。
/var ファイルシステム	クラッシュダンプ機能 savecore(1M)を使用する場合は、/var ファイルシステムの容量を物理メモリーの倍のサイズに設定します。

表 1-5 ディスク容量とスワップ領域に関する一般的な計画 (続き)

容量割り当ての条件	説明
スワップ	<p>次のような条件では、Solaris インストールプログラムはデフォルトのスワップ領域 (512M バイト) を割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ インストールプログラムによるディスクスライスの自動配置機能を使用する場合</li> <li>■ スワップスライスのサイズを手作業で変更しない場合</li> </ul> <p>デフォルトでは、Solaris インストールプログラムは、利用可能な最初のディスクシリンダ (SPARC システムでは通常シリンダ 0) でスワップが開始されるようにスワップ領域を割り当てます。この配置により、デフォルトのディスクレイアウトでルート (/) ファイルシステムに最大の容量を確保し、アップグレード時にルート (/) ファイルシステムを拡張できます。</p> <p>将来スワップ領域を拡張することを考えている場合、次のいずれかの手順を実行してスワップスライスを配置することにより、別のディスクシリンダでスワップスライスを開始できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Solaris インストールプログラムの場合、シリンダモードでディスクレイアウトをカスタマイズして、スワップスライスを目的の位置に手動で割り当てることができます。</li> <li>■ カスタム JumpStart インストールプログラムの場合、プロファイルファイル内でスワップスライスを割り当てることができます。JumpStart プロファイルファイルの詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』の「プロファイルの作成」を参照してください。</li> </ul> <p>スワップ空間の概要については、『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』の第 21 章「追加スワップ空間の構成 (手順)」を参照してください。</p>
ホームディレクトリファイルシステムを提供するサーバー	ホームディレクトリは、通常デフォルトで /export ファイルシステムにあります。
インストールする Solaris ソフトウェアグループ	ソフトウェアグループはソフトウェアパッケージの集まりです。ディスク容量を計画するには、選択したソフトウェアグループから個々のソフトウェアパッケージを個別に追加したり削除したりできることを覚えておいてください。ソフトウェアグループの詳細は、14 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」を参照してください。
アップグレード	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Solaris Live Upgrade を使用して非アクティブブート環境をアップグレードする場合、ディスク容量の計画については、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』の「Solaris Live Upgrade のディスク容量の要件」を参照してください。</li> <li>■ ほかの Solaris インストール方法を使用する場合、ディスク容量の計画については、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ディスク容量の再配置を伴うアップグレード」を参照してください。</li> </ul>
言語サポート	中国語、日本語、韓国語などです。単一の言語をインストールする場合は、約 0.7G バイトのディスク容量をその言語用に追加して割り当ててください。すべての言語サポートをインストールする場合は、インストールするソフトウェアグループに応じて、最大で約 2.5G バイトのディスク容量を言語サポート用に追加して割り当てる必要があります。

表 1-5 ディスク容量とスワップ領域に関する一般的な計画 (続き)

容量割り当ての条件	説明
印刷やメールのサポート	容量を追加します。
追加ソフトウェアや Sun 以外のソフトウェア	容量を追加します。

## ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量

Solaris ソフトウェアグループは Solaris パッケージの集まりです。それぞれのソフトウェアグループには、異なる機能やハードウェアドライバのサポートが含まれていません。

- 初期インストールの場合は、システムでどの機能を実行するかを考慮して、インストールするソフトウェアグループを選択します。
- アップグレードの場合は、システムにインストールされているソフトウェアグループでアップグレードする必要があります。たとえば、システムにエンドユーザーシステムサポートソフトウェアグループがインストールされている場合には、開発者システムサポートソフトウェアグループにアップグレードするオプションはありません。ただし、アップグレード中に、インストール済みのソフトウェアグループに属していないソフトウェアをシステムに追加することはできません。

Solaris ソフトウェアのインストール時には、選択した Solaris ソフトウェアグループに対してパッケージを追加したり、削除したりすることができます。パッケージの追加や削除を行う場合には、ソフトウェアの依存関係や Solaris ソフトウェアがどのようにパッケージ化されているかを知っている必要があります。

次の図は、ソフトウェアパッケージのグループを示しています。Reduced Networking サポートには、最小限の数のパッケージが含まれています。全体ディストリビューションと OEM サポートには、すべてのパッケージが含まれています。

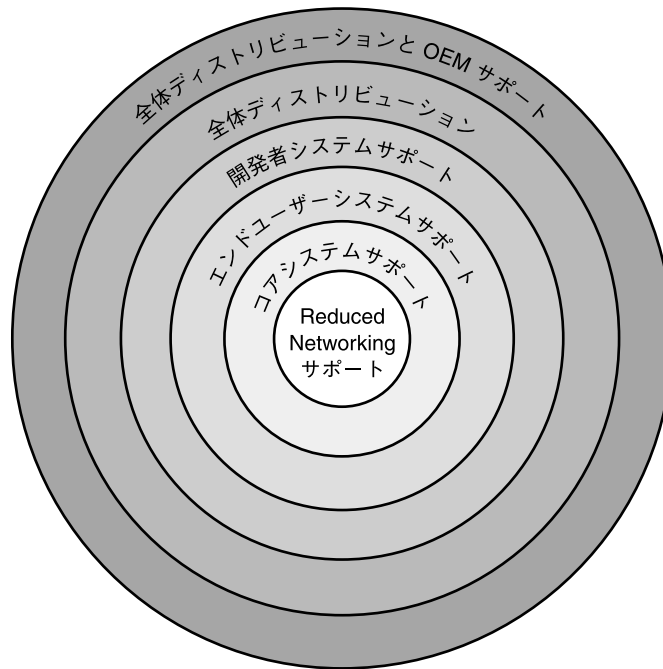


図 1-1 Solaris ソフトウェアグループ

表 1-6 に、Solaris ソフトウェアグループ、およびそれぞれのグループのインストールに推奨されるディスク容量の一覧を示します。

注 - 表 1-6 の推奨ディスク容量には、次の項目の容量も含まれています。

- スワップ領域
- パッチ
- 追加のソフトウェアパッケージ

各ソフトウェアグループに必要なディスク容量は、この表に一覧表示されている容量より少ない場合があります。

ディスク容量の計画方法の詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ディスク容量とスワップ空間の割り当て」を参照してください。

表1-6 ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量

ソフトウェアグループ	説明	推奨ディスク容量
全体ディストリビューションとOEMサポート	全体ディストリビューションのパッケージに加え、追加のハードウェアドライバが含まれています。これには、インストール時にシステムに存在していないハードウェアのドライバも含まれます。	6.8G バイト
全体ディストリビューション	開発者システムサポートのパッケージに加え、サーバーに必要な追加のソフトウェアが含まれています。	6.7G バイト
開発者システムサポート	エンドユーザーシステムサポートのパッケージに加え、ソフトウェア開発用の追加のサポートが含まれています。ソフトウェア開発のサポートとして、ライブラリ、インクルードファイル、マニュアルページ、プログラミングツールなどが追加されています。ただし、コンパイラは含まれていません。	6.6G バイト
エンドユーザーシステムサポート	ネットワークに接続された Solaris システムと共通デスクトップ環境 (CDE) の起動と実行に必要な最小限のコードを提供するパッケージが含まれています。	5.3G バイト
コアシステムサポート	ネットワークに接続された Solaris システムの起動と実行に必要な最小限のコードを提供するパッケージが含まれています。	2.0G バイト
Reduced Networking サポート	ネットワークサービスのサポートが限定された Solaris システムを起動および実行するために必要な最小限のコードを提供するパッケージが含まれています。Reduced Networking サポートは、テキストベースのマルチユーザーコンソールと、システム管理ユーティリティを提供します。このソフトウェアグループを使用すると、システムでネットワークインタフェースを認識できますが、ネットワークサービスがアクティブになることはありません。	2.0G バイト

## インストール用のチェックリスト

Solaris OS のインストールに必要な情報を収集する際に、次のチェックリストを使用します。ただし、チェックリストに記載されているすべての情報を収集する必要はありません。使用するシステムに関連する情報だけを収集してください。

このチェックリストは、初期インストールを行う場合のみ使用してください。システムのアップグレードを行う場合は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「アップグレード用のチェックリスト」を参照してください。



表 1-7 インストール用チェックリスト

インストールに必要な情報	説明/例	答-アスタリスク(*)はデフォルトを示します
ネットワーク接続	このシステムはネットワークに接続されていますか。	接続されている/接続されていない*
ネットワークセキュリティ	<p><b>Solaris 10 11/06</b> リリース以降では、初期インストール時にネットワークセキュリティの設定を変更して、Secure Shell 以外のすべてのネットワークサービスを無効にしたり、ローカルの要求だけに応答するように制限したりできます。このセキュリティオプションは初期インストール時のみ使用でき、アップグレード時には使用できません。アップグレードでは、以前に設定されているサービスが維持されます。必要な場合は、アップグレード後に <code>netservices</code> コマンドを使用してネットワークサービスを制限することができます。</p> <p>インストール中に、制限付きネットワークセキュリティを選択できます。または、以前の Solaris リリースと同様に、より多くのサービスを使用可能にすることもできます。インストール後に任意のサービスを個別に使用可能にできるため、制限付きネットワークセキュリティを選択しても問題ありません。これらの選択についての詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティの計画」を参照してください。</p> <p>インストール後に、<code>netservices open</code> コマンドを使用してネットワークサービス全体を使用可能にしたり、SMF コマンドを使用して個別のサービスを使用可能にしたりできます。詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティ設定の修正」を参照してください。</p>	制限付き/開放型ネットワークセキュリティ
DHCP	<p>このシステムでは、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) を使ってネットワークインタフェースを構成しますか。</p> <p>DHCP はインストールに必要なネットワークパラメータを提供します。</p>	はい/いいえ*

表 1-7 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報		説明/例	答-アスタリスク(*)はデフォルトを示します
DHCP を使用しない場合は、ネットワークアドレスをメモします。	IP アドレス	DHCP を使用しない場合は、このシステムの IP アドレスを指定します。 例: 172.31.255.255 稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。 <b># ypmatch host-name hosts</b>	
	サブネット	DHCP を使用しない場合、このシステムはサブネットの一部ですか。 「はい」の場合は、サブネットのネットマスクを指定します。 例: 255.255.255.0 稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。 <b># more /etc/netmasks</b>	
	IPv6	このマシンで IPv6 を使用可能にしますか。 IPv6 は TCP/IP インターネットプロトコルの 1 つで、より強固なセキュリティーを追加し、インターネットアドレスを増やすことで、IP アドレスの指定を容易にします。	はい/いいえ*
ホスト名	このシステムのホスト名。 稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。 <b># uname -n</b>		
Kerberos	このマシンに Kerberos セキュリティーを構成しますか。 「はい」の場合は、次の情報を収集します。  デフォルトのレルム: 管理サーバー: 一次 KDC: (省略可能) 追加 KDC:  Kerberos サービスは、ネットワーク経由でのセキュリティー保護されたトランザクションを提供するクライアントサーバーアーキテクチャーです。	はい/いいえ*	

表 1-7 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報		説明/例	答 - アスタリスク (*) はデフォルトを示します
システムで ネームサービスを使用する場合は、次の情報を指定します。	ネームサービス	<p>このシステムではどのネームサービスを使用しますか。</p> <p>稼働中のシステムについてこの情報を調べるには、次のコマンドを入力します。</p> <pre># cat /etc/nsswitch.conf</pre> <p>ネームサービスの情報は 1 か所に保管されているので、ユーザー、マシン、およびアプリケーションはネットワーク上で相互に通信できます。たとえば、ホスト名とアドレスまたはユーザー名とパスワードなどの情報が保管されています。</p>	NIS+/NIS/DNS/ LDAP/使用しない
	ドメイン名	<p>システムが属するドメインの名前を指定します。</p> <p>稼働中のシステムのドメイン名を調べる方法については、『Solaris のシステム管理 (ネットワークサービス)』の「NFS version 4 のドメインを確認する」を参照してください。</p>	

表 1-7 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答-アスタリスク(*)はデフォルトを示します
NIS+ および NIS	<p>ネームサーバーを指定しますか、それともインストールプログラムにネームサーバーの検索を任せますか。</p> <p>ネームサーバーを指定する場合は、次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: right;">サーバーのホスト名:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ NIS クライアントの場合、サーバーのホスト名を表示するには次のコマンドを入力します。</li> </ul> <pre># ypwhich</pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ NIS+ クライアントの場合、サーバーのホスト名を表示するには次のコマンドを入力します。</li> </ul> <pre># nisping</pre> <p style="text-align: right;">サーバーの IP アドレス:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ NIS クライアントの場合、サーバーの IP アドレスを表示するには次のコマンドを入力します。</li> </ul> <pre># ypmatch nameserver-name hosts</pre> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ NIS+ クライアントの場合、サーバーの IP アドレスを表示するには次のコマンドを入力します。</li> </ul> <pre># nismatch nameserver-name hosts.org_dir</pre> <p>ネットワーク情報サービス (NIS) は、マシン名やアドレスなどのさまざまなネットワーク情報を 1 つの場所で管理することによって、ネットワーク管理を容易にするためのサービスです。</p>	指定/検索*

表 1-7 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答 - アスタリスク (*) はデフォルトを示します
DNS	<p>DNS サーバーの IP アドレスを指定します。DNS サーバーの IP アドレスを少なくとも 1 つ、最大 3 つまで指定します。</p> <p style="text-align: right;">サーバーの IP アドレス:</p> <p>サーバーの IP アドレスを表示するには、次のコマンドを入力します。</p> <p><b># getent ipnodes dns</b></p> <p>DNS 検索を行うときに検索するドメインのリストを入力できます。</p> <p style="text-align: right;">検索するドメインのリスト:</p> <p>ドメインネームシステム (DNS) は、インターネットが TCP/IP ネットワーク用に提供するネームサービスです。DNS は、ホスト名から IP アドレスに変換するサービスを提供します。数値表現の IP アドレスの代わりにマシン名を使用するので、通信が簡単になります。また、メール管理用のデータベースとしての働きもします。</p>	
LDAP	<p>LDAP プロファイルに関する次の情報を指定します。</p> <p style="text-align: right;">プロファイル名:</p> <p style="text-align: right;">プロファイルサーバーのホスト名:</p> <p>LDAP プロファイルでプロキシ資格レベルを指定した場合、この情報を収集します。</p> <p style="text-align: right;">プロキシバインドの識別名:</p> <p style="text-align: right;">プロキシバインドのパスワード:</p> <p>LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) は、TCP/IP を使って動作するディレクトリを更新したり検索したりするときに使用される、比較的単純なプロトコルです。</p>	

表 1-7 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答-アスタリスク(*)はデフォルトを示します
デフォルトルート	<p>デフォルトルート IP アドレスを指定しますか、それとも Solaris インストールプログラムに IP アドレスの検索を任せますか。</p> <p>デフォルトルートは、2つの物理ネットワーク間のトラフィック転送用のブリッジを提供します。IP アドレスは、ネットワーク上の各ホストを識別する一意の番号です。</p> <p>次のうちから選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ IP アドレスを指定できます。指定された IP アドレスを使用して /etc/defaultrouter ファイルが作成されます。システムをリブートすると、指定された IP アドレスがデフォルトルートになります。</li> <li>■ Solaris インストールプログラムに IP アドレスを検出させることができます。ただし、システムは、ICMP ルーター発見プロトコルを使用して自らを通知するルーターの存在するサブネット上になければなりません。コマンド行インタフェースを使用している場合は、システムの起動時に IP アドレスが検出されます。</li> <li>■ ルーターが存在しない場合、または今回はソフトウェアに IP アドレスを検出させない場合は、「なし」を選択します。リブート時に、ソフトウェアが自動的に IP アドレスの検出を試みます。</li> </ul>	検出*/指定/なし
タイムゾーン	デフォルトの時間帯をどのように指定しますか。	地域* GMT との時差 時間帯ファイル
ルートパスワード	システムのルートパスワードを指定します。	
ロケール	どの地域のサポートをインストールしますか。	
SPARC: 電源管理 (電源管理システムをサポートする SPARC システムの場合のみ)	<p>電源管理システムを使用しますか。</p> <p>注 - システムに Energy Star バージョン 3 以降がある場合、この情報の入力 は求められません。</p>	はい*/いいえ
自動的なリブートまたは CD/DVD 取り出し	<p>ソフトウェアをインストールした後に自動的にリブートしますか。</p> <p>ソフトウェアをインストールした後に CD/DVD を自動的に取り出しますか。</p>	はい*/いいえ はい*/いいえ

表 1-7 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答 - アスタリスク (*) はデフォルトを示します
デフォルトインストールまたはカスタムインストール	<p>デフォルトのインストールを実行しますか、それともインストールをカスタマイズしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ デフォルトインストールを選択すると、ハードディスク全体がフォーマットされ、事前を選択されている一連のソフトウェアがインストールされます。</li> <li>■ カスタムインストールを選択すると、ハードディスクの配置を変更したり、必要なソフトウェアを選択してインストールしたりできます。</li> </ul> <p>注-テキストインストーラでは、「デフォルトインストール」か「カスタムインストール」かの選択は表示されません。デフォルトインストールを実行するには、テキストインストーラに表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。</p>	デフォルトインストール */カスタムインストール
ソフトウェアグループ	どの Solaris ソフトウェアグループをインストールしますか。	全体ディストリビューションと OEM サポート  全体ディストリビューション*  開発者システムサポート  エンドユーザーシステムサポート  コアシステムサポート  Reduced Networking サポート
カスタムパッケージ選択	<p>インストールする Solaris ソフトウェアグループに対してソフトウェアパッケージの追加や削除を行いますか。</p> <p>注-パッケージの追加や削除を行う場合には、ソフトウェアの依存関係や Solaris ソフトウェアがどのようにパッケージ化されているかを知っている必要があります。</p>	
ディスクの選択	<p>Solaris ソフトウェアをどのディスクにインストールしますか。</p> <p>例: c0t0d0</p>	

表 1-7 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答-アスタリスク(*)はデフォルトを示します
x86: fdisk によるパーティション分割	<p>Solaris fdisk パーティションの作成、削除、または変更を行いますか。</p> <p>ファイルシステムを配置するディスクには、Solaris fdisk パーティションが必要です。</p> <p>システムに現在サービスパーティションがある場合、Solaris インストールプログラムはデフォルトでサービスパーティションを保存します。サービスパーティションを保存しない場合、fdisk パーティションをカスタマイズする必要があります。サービスパーティションの保存については、『Solaris 10 11/06 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』の「デフォルトのブートディスクパーティションレイアウトで保存されるサービスパーティション」を参照してください。</p> <p>fdisk パーティションのカスタマイズのためにディスクを選択しますか。</p> <p>fdisk パーティションをカスタマイズしますか。</p>	<p>はい/いいえ*</p> <p>はい/いいえ*</p>
データの保存	<p>Solaris ソフトウェアをインストールするために選択したディスク上の既存のデータを保存しますか。</p>	<p>はい/いいえ*</p>
ファイルシステムの自動配置	<p>インストールプログラムに、ディスク上のファイルシステムを自動的に配置させますか。</p> <p>「はい」の場合は、どのファイルシステムを自動配置しますか。</p> <p>例: /、/opt、/var</p> <p>「いいえ」の場合は、手作業でファイルシステムを配置する必要があります。</p> <p>注-Solaris インストール GUI は、デフォルトでファイルシステムを自動配置します。</p>	<p>はい*/いいえ</p>
リモートファイルシステムのマウント	<p>このシステムからほかのファイルシステムにあるソフトウェアにアクセスする必要がありますか。</p> <p>必要な場合、リモートファイルシステムに関する次の情報を用意します。</p> <p>サーバー:</p> <p>IP アドレス:</p> <p>リモートファイルシステム:</p> <p>ローカルマウントポイント:</p>	<p>はい/いいえ*</p>



表 1-7 インストール用チェックリスト (続き)

インストールに必要な情報	説明/例	答 - アスタリスク (*) はデフォルトを示します
tip ラインを介してインストールを行う場合の指示	<p>ウィンドウ表示が横 80 桁、縦 24 行以上あるか確認します。詳細は、tip(1) のマニュアルページを参照してください。</p> <p>tip ウィンドウの現在の大きさを調べるには、stty コマンドを使用します。詳細は、stty(1) のマニュアルページを参照してください。</p>	
Ethernet 接続の確認	システムがネットワークに接続されている場合は、Ethernet コネクタまたはそれに類似したネットワークアダプタがシステムに装着されていることを確認します。	
計画の章とほかの関連マニュアルの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 計画の章の全体または特定の節を、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』のパート I 「Solaris のインストールおよびアップグレードの計画の概要」で確認します。</li> <li>■ <a href="http://docs.sun.com">http://docs.sun.com</a> の『Solaris 10 ご使用にあたって』やベンダーのリリースノートを参照して、使用するソフトウェアが新しい Solaris リリースでもサポートされていることを確認します。</li> <li>■ 『Solaris 10 11/06 Sun ハードウェアマニュアル』を参照して、使用するハードウェアがサポートされていることを確認します。</li> <li>■ システムに添付されている資料を参照して、使用するシステムやデバイスが Solaris リリースでサポートされていることを確認します。</li> </ul>	

## インストールに関する詳細情報の参照先

Solaris OS をインストールするための、より詳細な要件と推奨事項については、次に挙げる『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の各節を参照してください。このマニュアルには、ファイルシステムの計画のガイドラインやアップグレードの計画など、システム要件と高度な計画についての情報が含まれています。

表 1-8 インストールに関する参照先

トピック	参照先
新しいインストール機能	『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の第 2 章「Solaris インストールの新機能」

表 1-8 インストールに関する参照先 (続き)

トピック	参照先
ネットワークセキュリティーの計画	『Solaris 10 11/06 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティーの計画」
ディスク容量のガイドラインと推奨事項	『Solaris 10 11/06 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』の「ディスク容量とスワップ空間の割り当て」
Solaris OS をアップグレードするための追加の要件と推奨事項	『Solaris 10 11/06 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』の「アップグレード計画」
	『Solaris 10 11/06 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』の「アップグレード用のチェックリスト」
インストール時の x86 パーティションの操作に関する情報	『Solaris 10 11/06 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』の「パーティション分割に関する推奨事項」
GRUB ベースのブート、Solaris ゾーン区分技術、およびインストール時に作成可能な RAID-1 ボリュームに関する情報	『Solaris 10 11/06 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』のパート II 「GRUB、Solaris ゾーン、および RAID-1 ボリュームに関連するインストールについて」
インストールプロセス全体のロードマップ	『Solaris 10 11/06 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』の「作業マップ: Solaris ソフトウェアのインストールまたはアップグレード」

## Solaris インストールプログラムによるインストール(作業)

---

この章では、Solaris Operating System DVD または Solaris SOFTWARE - 1 CD に含まれている Solaris インストールプログラムを使用して、Solaris ソフトウェアのインストールやアップグレードを行う方法について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- 27 ページの「SPARC: Solaris インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード」
- 36 ページの「x86: Solaris インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード」

新しいインストール機能の詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の第 2 章「Solaris インストールの新機能」を参照してください。Solaris OS におけるすべての新機能の詳細は、『Solaris 10 の概要』を参照してください。

### SPARC: Solaris インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード

Solaris インストールプログラムを使用して、Solaris OS をインストールまたはアップグレードすることができます。この節では、Solaris OS をインストールするために必要な作業の一覧を示し、DVD または CD メディアから Solaris OS をインストールする方法について説明します。

#### ▼ SPARC: Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法

この手順では、スタンドアロンの SPARC システムを CD または DVD メディアからインストールする方法について説明します。

---

注-DVD-ROMドライブまたはCD-ROMドライブが直接接続されていないマシンやドメインに Solaris OS をインストールする場合は、別のマシンに接続されている DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブを使用できます。手順の詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド(ネットワークインストール)』の付録 B 「リモートからのインストールまたはアップグレード(作業)」を参照してください。

---

始める前に インストールを開始する前に、次の作業を行います。

- 次のメディアを用意してください。
  - DVD からインストールする場合は、Solaris Operating System DVD (SPARC 版) を使用してください。
  - CD からインストールする場合は、次の CD を使用してください。
    - Solaris SOFTWARE CD。
    - Solaris LANGUAGES CD (SPARC 版) - 特定地域の言語をサポートするために必要な場合、インストールプログラムがこの CD をドライブに挿入するように要求します。

---

注-非大域ゾーンがインストールされているシステムをアップグレードする場合、Solaris SOFTWARE CD を使用することはできません。Solaris Operating System DVD または DVD ベースのネットワークインストールイメージを使用する必要があります。

---

- システムの最小要件を満たしていることを確認します。

システムの必要条件は次のとおりです。

  - メモリー - 128M バイト以上
  - ディスク容量 - 6.8G バイト以上
  - プロセッサ速度 - 200 MHz 以上

システム要件の詳細については、9 ページの「システム要件と推奨事項」を参照してください。
- Solaris OS のインストールに必要な情報を収集します。
  - ネットワークに接続されていないシステムの場合は、次の情報を収集します。
    - インストールするシステムのホスト名
    - システムで使用する予定の言語とロケール
  - ネットワークに接続されたシステムの場合は、次の情報を収集します。

注 - **Solaris 10 11/06** リリース以降では、初期インストール時にネットワークセキュリティの設定を変更して、Secure Shell 以外のすべてのネットワークサービスを無効にしたり、ローカルの要求だけに応答するように制限したりできます。このセキュリティオプションは初期インストール時のみ使用でき、アップグレード時には使用できません。アップグレードでは、以前に設定されているサービスが維持されます。必要な場合は、アップグレード後に `netservices` コマンドを使用してネットワークサービスを制限することができます。詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティの計画」を参照してください。

インストール後に `netservices open` を使用してネットワークサービスを使用可能にしたり、SMF コマンドを使用して個別のサービスを使用可能にしたりできます。詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティ設定の修正」を参照してください。

- インストールするシステムのホスト名
- システムで使用する予定の言語とロケール
- ホスト IP アドレス
- サブネットマスク
- ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+ など)
- ドメイン名
- ネームサーバーのホスト名
- ネームサーバーのホスト IP アドレス
- root パスワード

システムをインストールするために収集する必要のある情報については、16 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照してください。システムのアップグレードを行う場合は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「アップグレード用のチェックリスト」を参照してください。

- (省略可能) システムのバックアップをとります。

既存のデータやアプリケーションを保存するには、システムのバックアップをとります。システムのバックアップ手順についての詳細は、『Solaris のシステム管理 (デバイスとファイルシステム)』の第 24 章「ファイルシステムのバックアップと復元 (概要)」を参照してください。

- 1 **Solaris Operating System DVD (SPARC 版)** または **Solaris SOFTWARE - 1 CD (SPARC 版)** を挿入します。
- 2 システムをブートします。
  - 新しく購入したばかり (未使用) のシステムの場合は、システムの電源を入れます。
  - 稼働中のシステムのインストールを行う場合は、システムをシャットダウンします。
 ok プロンプトが表示されます。

### 3 Solaris インストールプログラムを起動します。

- ローカルの DVD または CD からブートし、Solaris インストール GUI をデスクトップセッションで起動するには、次のコマンドを入力します。

```
ok boot cdrom
```

- ローカルの DVD または CD からブートし、テキストインストーラをデスクトップセッションで起動するには、次のコマンドを入力します。

```
ok boot cdrom - text
```

```
text    テキストインストーラをデスクトップセッションで実行することを指定しま
        す。このオプションは、デフォルトの GUI インストーラよりも優先されま
        す。
```

- ローカルの DVD または CD からブートし、テキストインストーラをコンソールセッションで起動するには、次のコマンドを入力します。

```
ok boot cdrom - nowin
```

```
nowin   テキストインストーラをコンソールセッションで実行することを指定しま
        す。このオプションは、デフォルトの GUI インストーラよりも優先されま
        す。
```

Solaris インストールプログラムの GUI およびテキストインストーラの詳細は、10 ページの「Solaris インストールプログラムの GUI またはテキストインストーラの要件」を参照してください。

インストールが開始します。インストーラは、インストール中に使用する言語の選択を求めます。

### 4 インストールで使用する言語を選択し、Enter キーを押します。

数秒後に Solaris インストールプログラムの開始画面が表示されます。

- Solaris GUI インストールプログラムを実行している場合は、図 2-1 のような画面が表示されます。
- Solaris テキストインストーラをデスクトップセッションで実行している場合は、図 2-2 のような画面が表示されます。

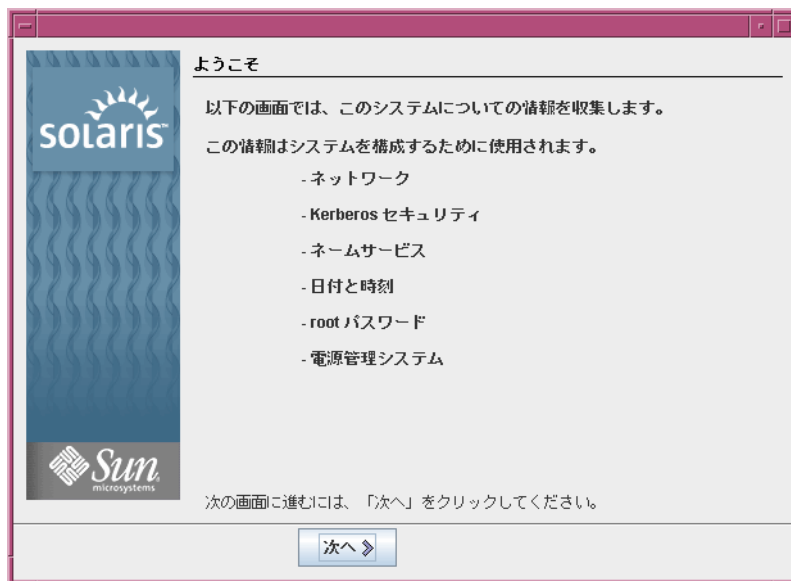


図 2-1 Solaris GUI インストールプログラムの開始画面

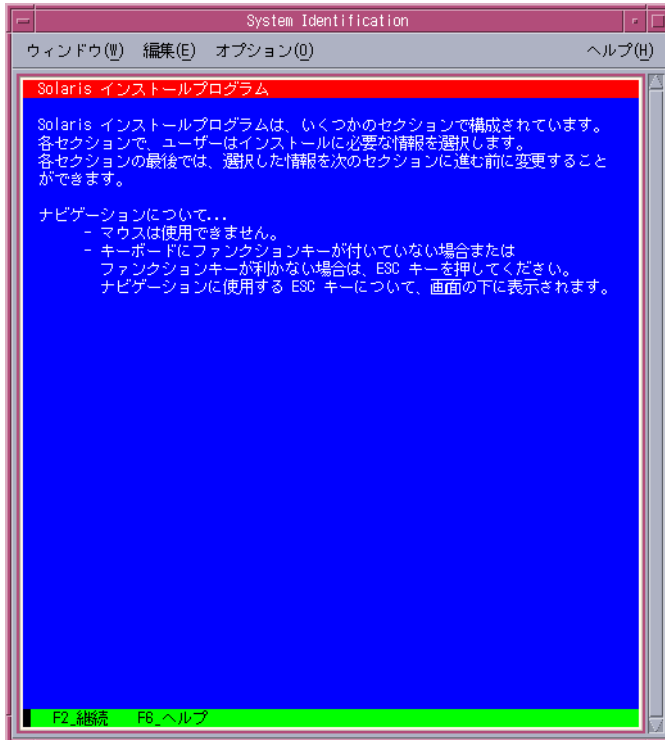


図 2-2 Solaris テキストインストールプログラムの開始画面

5 「次へ」をクリックしてインストールを開始します。システム構成の質問に答えます。

- すべてのシステム情報が事前設定されている場合は、構成情報の入力はありません。詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』の第 2 章「システム構成情報の事前設定 (作業)」を参照してください。
- すべてのシステム情報が事前設定されている場合以外、インストールプログラムのいくつかの画面で情報の入力が必要です。16 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照して、構成の質問に答えてください。
- 構成の質問の 1 つで、リモートクライアントによるネットワークサービスの使用を可能にするかどうかを尋ねられます。デフォルトの回答は「はい」です。

「いいえ」を選択すると、より高いセキュリティーで保護された構成となり、リモートクライアントに提供されるネットワークサービスは Secure Shell だけになります。

「はい」を選択すると、以前の Solaris リリースと同様に、より多くのサービスが使用可能になります。インストール後に任意のサービスを使用可能にできるため、「いいえ」を選択しても問題ありません。これらの選択についての詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティーの計画」を参照してください。



インストール後に、`netservices open` コマンドを使用してネットワークサービス全体を使用可能にしたり、`SMF` コマンドを使用して個別のサービスを使用可能にしたりできます。詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。

構成の質問に答え終わると、「ようこそ」画面が表示されます。



図2-3 「ようこそ」画面

「インストーラ・オプション (Installer Questions)」画面が表示されます。

- 6 システムのリブートとディスクの取り出しを自動的に行うかどうかを決定します。「次へ」をクリックします。  
「媒体の指定 (Specify Media)」画面が表示されます。
- 7 インストールに使用するメディアを指定します。「次へ」をクリックします。  
ライセンスパネルが表示されます。
- 8 インストールを続行する場合は、ライセンス条項に同意します。「次へ」をクリックします。  
その後、システムがアップグレード可能かどうか判定されます。システムをアップグレードするには、Solaris ルート (/) ファイルシステムがすでに存在している必要があります。Solaris インストールプログラムは、必要な条件を検出すると、アップグレードを行います。  
「「アップグレード」または「初期」インストールの選択」画面が表示されます。

- 9 初期インストールまたはアップグレードのいずれかを選択します。「次へ」をクリックします。
- 非大域ゾーンがインストールされているシステムをアップグレードする場合は、次の手順に従ってください。
- a. 初期インストールかアップグレードかを選択するプロンプトが表示されたら、「アップグレード」を選択します。「次へ」をクリックします。
  - b. 複数のルート (/)パーティションが存在するシステムの場合は、「アップグレードするバージョンの選択」パネルでアップグレードするパーティションを選択します。  
Solaris インストールプログラムは、このアップグレードをカスタマイズすることはできないというメッセージを表示します。Solaris インストールプログラムは、このシステムをアップグレードできるかどうかを判断するために、システムを解析します。「アップグレードの準備完了」パネルが表示されます。  
ルートパーティションが1つだけの場合、Solaris インストールプログラムはアップグレードするパーティションを選択するプロンプトを表示しません。パーティションは自動的に選択されます。
  - c. アップグレードを続行する場合は、「アップグレードの準備完了」パネルの「インストール開始」をクリックします。  
Solaris インストールプログラムは、システムのアップグレードを開始します。アップグレードが完了したあと、保存されなかったローカルな変更があればそれを修正する必要があります。詳細な情報を得るには、手順 12 の手順 a に進んでください。  
アップグレードを続行しない場合は、「戻る」をクリックして初期インストールを実行します。
- 10 実行するインストールの種類を選択します。「次へ」をクリックします。
- 全体ディストリビューションをインストールするには、「デフォルトインストール」を選択します。
  - 次の作業を行うには、「カスタムインストール」を選択します。
    - 特定のソフトウェアグループをインストールする
    - 追加のソフトウェアをインストールする
    - 特定のソフトウェアパッケージをインストールする
    - 特定のロケールをインストールする
    - ディスク配置をカスタマイズする
- ソフトウェアグループの詳細については、14 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」を参照してください。

注-テキストインストーラでは、「デフォルトインストール」か「カスタムインストール」かの選択は表示されません。デフォルトインストールを実行するには、テキストインストーラに表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。

- 11 構成に関する追加の質問が表示される場合は、それらに答えます。  
システムのインストールに必要な情報を指定し終わると、「インストールの準備完了」画面が表示されます。



図2-4 「インストールの準備完了」画面

- 12 「インストール開始」をクリックして、**Solaris** ソフトウェアをインストールします。画面の指示に従って、**Solaris** ソフトウェアをインストールします。  
Solaris ソフトウェアプログラムのインストールが終了すると、システムは自動的にリポートするか、または手動でリポートするように促します。  
追加の製品をインストールする場合は、その製品の DVD または CD を挿入するように指示が表示されます。インストール手順については、該当するインストールマニュアルを参照してください。

インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、`/var/sadm/system/logs` ディレクトリと `/var/sadm/install/logs` ディレクトリに作成されます。

- 初期インストールの場合は、これでインストールが完了します。手順 13 に進んでください。
- Solaris ソフトウェアのアップグレードを行なっている場合は、保存されなかったローカルな変更があればそれを修正する必要があります。手順 a に進んでください。
  - a. `/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup` ファイルの内容を確認して、Solaris インストールプログラムによって保存されなかったローカルな変更を修正する必要があるかどうかを判断します。
  - b. 保存されなかったローカルな変更があれば、修正します。

13 インストール時に自動リブートを選択しなかった場合は、システムをリブートします。

```
# reboot
```

注意事項 インストールやアップグレードで問題が発生した場合は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』の付録 A 「問題発生時の解決方法 (作業)」を参照してください。

## x86: Solaris インストールプログラムによるインストールまたはアップグレード

Solaris インストールプログラムを使用して、Solaris OS をインストールまたはアップグレードすることができます。この節では、Solaris OS をインストールするために必要な作業の一覧を示し、DVD または CD メディアから Solaris OS をインストールする方法について説明します。

### ▼ x86: GRUB 付き Solaris インストールプログラムを使用してインストールまたはアップグレードを行う方法

x86 システム用の Solaris インストールプログラムでは、GRUB ブートローダーが使用されます。この手順では、スタンドアロンの GRUB ブートローダー付き x86 システムを CD または DVD メディアからインストールする方法について説明します。GRUB ブートロー

ダーの概要については、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の第6章「Solaris インストールのための GRUB ベースのブート」を参照してください。

---

注-DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブが直接接続されていないマシンやドメインに Solaris OS をインストールする場合は、別のマシンに接続されている DVD-ROM ドライブまたは CD-ROM ドライブを使用できます。手順の詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』の付録 B 「リモートからのインストールまたはアップグレード (作業)」を参照してください。

---

始める前に インストールを開始する前に、次の作業を行います。

- 次のメディアを用意してください。
  - DVD からインストールする場合は、Solaris Operating System DVD (x86 版) を使用してください。
  - CD メディアからインストールする場合は、次の CD を使用してください。
    - Solaris SOFTWARE CD。
    - Solaris LANGUAGES CD (x86 版) - 特定の地域の言語をサポートするために必要な場合、インストールプログラムがこの CD を挿入するように要求します。

---

注-非大域ゾーンがインストールされているシステムをアップグレードする場合、Solaris SOFTWARE CD を使用することはできません。Solaris Operating System DVD または DVD ベースのネットワークインストールイメージを使用する必要があります。

---

- システムの BIOS を調べて、CD または DVD メディアからブートできることを確認します。
- 使用するハードウェアに Solaris OS をインストールするために必要なインストール時更新 (ITU) やドライバをすべて入手します。ITU や追加のドライバが必要かどうかを調べるには、ハードウェアのマニュアルを参照してください。
- システムの最小要件を満たしていることを確認します。

システムの必要条件は次のとおりです。

- メモリー - 512M バイト以上
- ディスク容量 - 6.8G バイト以上
- プロセッサ速度 - 120 MHz 以上。ハードウェアによる浮動小数点サポートが必要です

システム要件の詳細については、9 ページの「システム要件と推奨事項」を参照してください。

Sun Microsystems, Inc. 以外で製造されたシステムに Solaris OS をインストールする場合は、インストールを開始する前に、Solaris Hardware Compatibility List (<http://www.sun.com/bigadmin/hcl>) を確認してください。

- Solaris OS のインストールに必要な情報を収集します。
  - ネットワークに接続されていないシステムの場合は、次の情報を収集します。
    - インストールするシステムのホスト名
    - システムで使用する予定の言語とロケール
  - ネットワークに接続されたシステムの場合は、次の情報を収集します。

---

注 - **Solaris 10 11/06** リリース以降では、初期インストール時にネットワークセキュリティの設定を変更して、Secure Shell 以外のすべてのネットワークサービスを無効にしたり、ローカルの要求だけに応答するように制限したりできます。このセキュリティオプションは初期インストール時のみ使用でき、アップグレード時には使用できません。アップグレードでは、以前に設定されているサービスが維持されます。必要な場合は、アップグレード後に `netservices` コマンドを使用してネットワークサービスを制限することができます。詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティの計画」を参照してください。

インストール後に、`netservices open` コマンドを使用してネットワークサービス全体を使用可能にしたり、SMF コマンドを使用して個別のサービスを使用可能にしたりできます。詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティ設定の修正」を参照してください。

- 
- インストールするシステムのホスト名
  - システムで使用する予定の言語とロケール
  - ホスト IP アドレス
  - サブネットマスク
  - ネームサービスの種類 (DNS、NIS、NIS+ など)
  - ドメイン名
  - ネームサーバーのホスト名
  - ネームサーバーのホスト IP アドレス
  - root パスワード

システムをインストールするために収集する必要がある情報については、16 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照してください。システムのアップグレードを行う場合は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「アップグレード用のチェックリスト」を参照してください。

- (省略可能) システムのバックアップをとります。

既存のデータやアプリケーションを保存するには、システムのバックアップをとりま  
す。システムのバックアップ手順についての詳細は、『Solaris のシステム管理 (デバ  
イスとファイルシステム)』の第 24 章「ファイルシステムのバックアップと復元 (概  
要)」を参照してください。

#### 1 適切なメディアをシステムに挿入します。

Solaris Operating System DVD または Solaris SOFTWARE - 1 CD からブートする場合は、その  
ディスクを挿入します。この場合、システムの BIOS が DVD または CD からのブートを  
サポートしている必要があります。

DVD または CD からブートするように BIOS を手動で設定する必要が生じることもありま  
す。BIOS の設定方法については、ハードウェアのマニュアルを参照してください。

#### 2 システムを停止して電源を切り、再び電源を入れてシステムをブートします。

#### 3 CD または DVD からブートするように BIOS を手動で設定する必要がある場合は、システム のブート処理を中断する適切なキーシーケンスを入力します。

BIOS でブート優先順位を変更し、BIOS を終了してインストールプログラムに戻ります。

メモリーテストとハードウェア検出が実行されます。画面が再表示されます。GRUB メ  
ニューが表示されます。

```
GNU GRUB version 0.95 (631K lower / 2095488K upper memory)
```

```
+-----+
| Solaris                                     |
| Solaris Serial Console ttya                |
| Solaris Serial Console ttyb (for lx50, v60x and v65x) |
|                                             |
|                                             |
+-----+
```

```
Use the ^ and v keys to select which entry is highlighted.
Press enter to boot the selected OS, 'e' to edit the
commands before booting, or 'c' for a command-line.
```

#### 4 適切なインストールオプションを選択します。

- 現在のシステムに CD または DVD から Solaris OS をインストールする場合は、  
「Solaris」を選択して Enter キーを押します。

デフォルト値を使用してシステムをインストールする場合は、このオプションを選択  
します。

- インストールする Solaris OS の画面出力をシリアルコンソール ttya (COM1) に送信する場  
合は、「Solaris Serial Console ttya」を選択します。

システムディスプレイをシリアルポート COM1 に接続されたデバイスに変更する場合  
は、このオプションを選択します。

- インストールする **Solaris OS** の画面出力をシリアルコンソール **ttyb (COM2)** に送信する場合は、「**Solaris Serial Console ttyb**」を選択します。  
システムディスプレイをシリアルポート COM2 に接続されたデバイスに変更する場合は、このオプションを選択します。
- ブート引数を指定して **Solaris OS** をインストールする場合は、次の手順に従ってください。  
インストール時にシステム構成をカスタマイズする場合は、ブート引数を使用します。

- a. **GRUB** メニューで、編集するインストールオプションを選択してから、**e** キーを押します。

GRUB メニューに、次のようなブートコマンドが表示されます。

```
kernel /boot/multiboot kernel/unix -B install_media=cdrom
module /boot/x86.miniroot
```

- b. 矢印キーを使用して編集するブート項目を選択してから、**e** キーを押します。  
編集するブートコマンドが、GRUB 編集ウィンドウに表示されます。

- c. 使用するブート引数またはオプションを入力して、ブートコマンドを編集します。

GRUB 編集メニューでは、次のコマンド構文を使用します。

```
grub edit>kernel /boot/multiboot kernel/unix/ \
install [url|ask] -B options install_media=media_type
```

ブート引数およびコマンド構文については、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』の第 8 章「ネットワークからのインストール (コマンドリファレンス)」を参照してください。

- d. **GRUB** メニューに戻るには、**Enter** キーを押します。

GRUB メニューが表示されます。ブートコマンドに行なった編集が表示されます。

- e. インストールを開始するには、**GRUB** メニューに **b** と入力します。

デフォルトのブートディスクが、システムのインストールまたはアップグレードに必要な条件を満たしているかどうかを検査されます。**Solaris** インストールがシステム構成を検出できない場合は、不足している情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。

検査が完了すると、インストールの選択画面が表示されます。

## 5 インストールの種類を選択します。

インストールの選択画面には、次のオプションが表示されます。

```
Select the type of installation you want to perform:
```



- 1 Solaris Interactive
- 2 Custom JumpStart
- 3 Solaris Interactive Text (Desktop session)
- 4 Solaris Interactive Text (Console session)
- 5 Apply driver updates
- 6 Single user shell

Enter the number of your choice followed by the <ENTER> key.  
Alternatively, enter custom boot arguments directly.

If you wait 30 seconds without typing anything,  
an interactive installation will be started.

- **Solaris OS** をインストールするには、次の中からいずれかを選択します。
  - **Solaris** の対話式インストール GUI を使ってインストールするには、**1** と入力してから **Enter** キーを押します。
  - デスクトップセッションで対話式テキストインストーラを使ってインストールするには、**3** と入力してから **Enter** キーを押します。プロンプトに `b - text` と入力することもできます。  
このインストールの種類を選択すると、デフォルトの GUI インストーラを無効にしてテキストインストーラを実行します。
  - コンソールセッションで対話式テキストインストーラを使ってインストールするには、**4** と入力してから **Enter** キーを押します。プロンプトに `b - text` と入力することもできます。  
このインストールの種類を選択すると、デフォルトの GUI インストーラを無効にしてテキストインストーラを実行します。

自動的なカスタム JumpStart インストール (オプション 2) を実行する場合は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』を参照してください。

Solaris インストール GUI およびテキストインストーラの詳細は、[9 ページ](#)の「**システム要件と推奨事項**」を参照してください。

システムでデバイスとインタフェースが構成され、構成ファイルが検索されます。kdmconfig ユーティリティでは、システムのキーボード、ディスプレイ、およびマウスの構成に必要なドライバが検出されます。インストールプログラムが開始します。**手順 6**に進んでインストールを続行してください。

- インストールする前にシステム管理作業を実行する場合は、次のいずれかの操作を行います。
  - ドライバを更新するか、インストール時更新 (ITU) をインストールする場合は、更新するためのメディアを挿入して **5** を入力し、**Enter** キーを押します。  
使用するシステム上で Solaris OS を実行するために、ドライバの更新または ITU のインストールが必要になる場合があります。ドライバの更新または ITU のインストールを行う手順に従ってください。
  - システム管理作業を実行する場合は、**6** を入力してから、**Enter** キーを押します。  
インストールする前にシステム管理作業を実行する場合には、シングルユーザーシェルを起動します。インストールする前に実行できるシステム管理作業については、『Solaris のシステム管理 (基本編)』を参照してください。
- これらのシステム管理作業が完了すると、前の手順で表示されたオプションリストが表示されます。インストールを続行する場合は、適切なオプションを選択してください。

## 6 設定を変更する必要があるかどうかを判断します。

---

注 - `kdmconfig` ユーティリティは、システムのビデオドライバを検出できないと 640x480 VGA ドライバを選択します。640x480 VGA ドライバでは、Solaris インストール GUI を表示できません。その結果、Solaris インストールのテキストインストーラが表示されません。Solaris インストール GUI を使用するには、`kdmconfig` ユーティリティを使って適切なビデオドライバを選択する必要があります。

---

- 設定を変更する必要がない場合は、「**Window System Configuration for Installation**」画面をタイムアウトにします。[手順 12](#)に進んでください。
- 設定を変更する必要がある場合は、次の手順に従ってください。
  - a. **ESC** キーを押します。

---

注 - インストールを中断してデバイスの設定を変更するには、5 秒以内に `Esc` キーを押す必要があります。

---

「`kdmconfig - Introduction`」画面が表示されます。

- b. 「`kdmconfig - View and Edit Window System Configuration`」画面の構成情報を確認し、編集する必要のあるデバイスを判断します。
- c. 変更するデバイスを選択し、「**F2\_継続**」を押します。
- d. デバイスに適したドライバを選択し、「**F2\_継続**」を押します。

- e. 変更する必要がある各デバイスについて、**手順 a** から **手順 b** を繰り返します。
  - f. 構成情報の確認が終わったら、「**No changes needed – Test/Save and Exit**」を選択し、「**F2\_継続**」を押します。  
「kdmconfig Window System Configuration Test」画面が表示されます。
  - g. 「**F2\_継続**」を押します。  
画面が再表示され、「kdmconfig Window System Configuration Test palette and pattern」画面が表示されます。
  - h. ポインタを移動でき、パレット上に示されている色が正しく表示されていることを確認します。
    - 色が正しく表示されていない場合は、「**No**」をクリックします。可能な場合、キーボードのいずれかのキーを押すか、「**kdmconfig Window System Configuration Test**」画面が自動的に終了するのを待ちます。そして、一連の色が正しく表示され、ポインタを正しく移動できるまで、**手順 a** から **手順 h** を繰り返します。
    - 一連の色が正しく表示されている場合は、「**Yes**」をクリックします。  
数秒後に「Select a Language」(言語選択)画面が表示されます。
- 7** インストールで使用する言語を選択し、**Enter** キーを押します。  
数秒後に「Solaris インストールプログラム」画面が表示されます。
- Solaris GUI インストールプログラムを実行している場合は、[図 2-5](#)のような画面が表示されます。
  - Solaris テキストインストーラをデスクトップセッションで実行している場合は、[図 2-6](#)のような画面が表示されます。

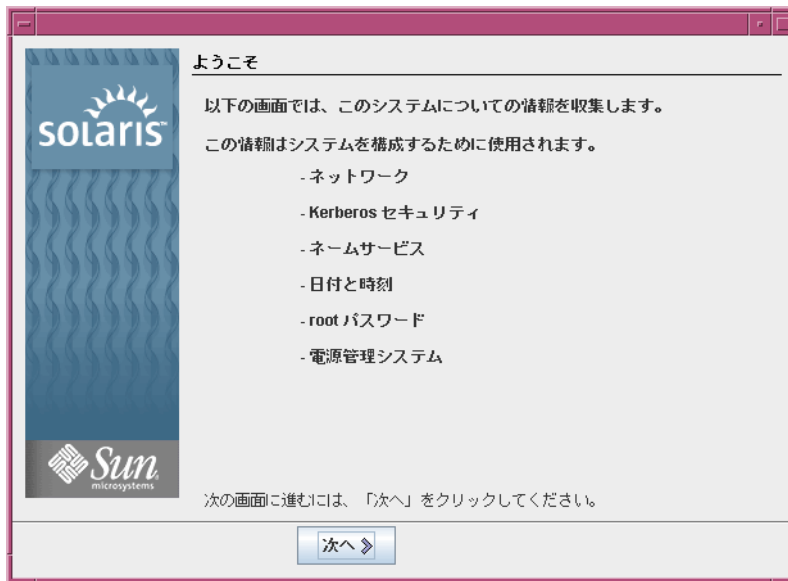


図 2-5 Solaris GUI インストールプログラムの開始画面

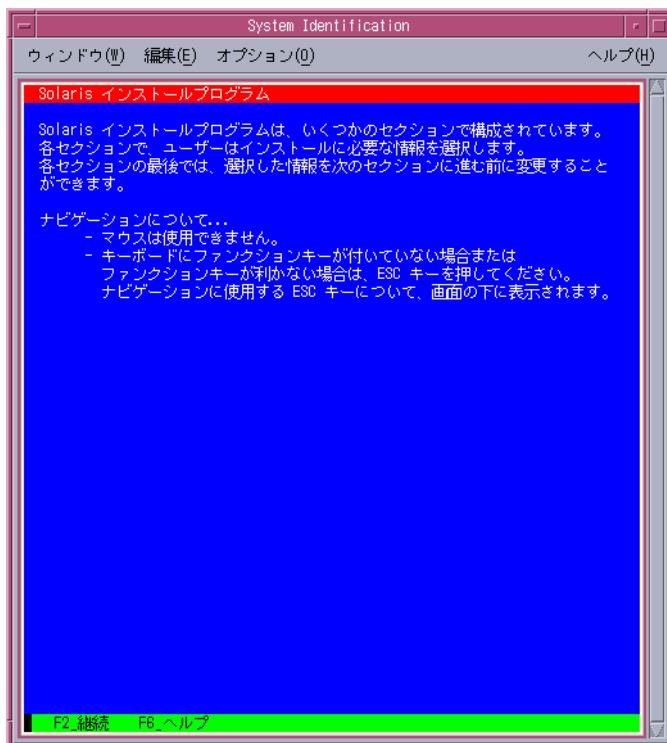


図 2-6 Solaris テキストインストーラの開始画面

- 8 「次へ」をクリックしてインストールを開始します。構成に関する残りの質問が表示される場合は、それらに答えます。
- すべてのシステム情報が事前設定されている場合は、構成情報の入力はありません。詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (ネットワークインストール)』の第 2 章「システム構成情報の事前設定 (作業)」を参照してください。
  - すべてのシステム情報が事前設定されている場合以外、インストールプログラムのいくつかの画面で情報の入力が必要です。16 ページの「インストール用のチェックリスト」を参照して、構成の質問に答えてください。
  - 構成の質問の 1 つで、リモートクライアントによるネットワークサービスの使用を可能にするかどうかを尋ねられます。デフォルトの回答は「はい」です。

「いいえ」を選択すると、より高いセキュリティで保護された構成となり、リモートクライアントに提供されるネットワークサービスは Secure Shell だけになります。

「はい」を選択すると、以前の Solaris リリースと同様に、より多くのサービスが使用可能になります。インストール後に任意のサービスを使用可能にできるため、「いいえ」を選択しても問題ありません。これらの選択についての詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「ネットワークセキュリティの計画」を参照してください。

インストール後に、`netservices open` コマンドを使用してネットワークサービス全体を使用可能にしたり、`SMF` コマンドを使用して個別のサービスを使用可能にしたりできます。詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (インストールとアップグレードの計画)』の「インストール後のセキュリティー設定の修正」を参照してください。

構成の質問に答え終わると、「ようこそ」画面が表示されます。



図 2-7 「ようこそ」画面

- 9 システムのリブートとディスクの取り出しを自動的に行うかどうかを決定します。「次へ」をクリックします。  
「媒体の指定 (Specify Media)」画面が表示されます。
- 10 インストールに使用するメディアを指定します。「次へ」をクリックします。  
ライセンス画面が表示されます。
- 11 インストールを続行する場合は、ライセンス条項に同意します。「次へ」をクリックします。  
その後、システムがアップグレード可能かどうか判定されます。システムをアップグレードするには、Solaris ルート (/) ファイルシステムがすでに存在している必要があります。Solaris インストールプログラムは、必要な条件を検出すると、アップグレードを行います。  
「「アップグレード」または「初期」インストールの選択」画面が表示されます。

- 12 初期インストールまたはアップグレードのいずれかを選択します。「次へ」をクリックします。

---

注-インストールを開始する前に診断・サービスパーティションをシステムに復元すると、Solaris OS にアップグレードできなくなることがあります。詳細は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (Solaris Live Upgrade とアップグレードの計画)』の「既存のサービスパーティションが存在しないシステムでは、デフォルトでサービスパーティションが作成されない」を参照してください。

---

非大域ゾーンがインストールされているシステムをアップグレードする場合は、次の手順に従ってください。

- a. 初期インストールかアップグレードかを選択するプロンプトが表示されたら、「アップグレード」を選択します。「次へ」をクリックします。
- b. 複数のルート (/)パーティションが存在するシステムの場合は、「アップグレードするバージョンの選択」パネルでアップグレードするパーティションを選択します。

Solaris インストールプログラムは、このアップグレードをカスタマイズすることはできないというメッセージを表示します。Solaris インストールプログラムは、このシステムをアップグレードできるかどうかを判断するために、システムを解析します。「アップグレードの準備完了」パネルが表示されます。

ルートパーティションが1つだけの場合、Solaris インストールプログラムはアップグレードするパーティションを選択するプロンプトを表示しません。パーティションは自動的に選択されます。

- c. アップグレードを続行する場合は、「アップグレードの準備完了」パネルの「インストール開始」をクリックします。

Solaris インストールプログラムは、システムのアップグレードを開始します。アップグレードが完了したあと、保存されなかったローカルな変更があればそれを修正する必要があります。詳細な情報を得るには、[手順 15 の手順 a](#)に進んでください。

アップグレードを続行しない場合は、「戻る」をクリックして初期インストールを実行します。

- 13 実行するインストールの種類を選択します。「次へ」をクリックします。

- 全体ディストリビューションをインストールするには、「デフォルトインストール」を選択します。
- 次の作業を行うには、「カスタムインストール」を選択します。
  - 特定のソフトウェアグループをインストールする
  - 追加のソフトウェアをインストールする
  - 特定のソフトウェアパッケージをインストールする
  - 特定のロケールをインストールする

- ディスク配置をカスタマイズする

ソフトウェアグループの詳細については、14 ページの「ソフトウェアグループごとの推奨ディスク容量」を参照してください。fdisk パーティションのカスタマイズについては、『Solaris 10 11/06 インストールガイド(インストールとアップグレードの計画)』の「パーティション分割に関する推奨事項」を参照してください。

注-テキストインストーラでは、「デフォルトインストール」か「カスタムインストール」かの選択は表示されません。デフォルトインストールを実行するには、テキストインストーラに表示されるデフォルト値をそのまま使用します。カスタムインストールを実行するには、テキストインストーラの画面で値を編集します。

14 構成に関する追加の質問が表示される場合は、それらに答えます。

システムのインストールに必要な情報を指定し終わると、「インストールの準備完了」画面が表示されます。



図 2-8 「インストールの準備完了」画面

15 「インストール開始」をクリックして、Solaris ソフトウェアをインストールします。画面に示される手順に従って、Solaris ソフトウェアと追加ソフトウェア(必要な場合)をシステムにインストールします。

Solaris インストールプログラムによる Solaris ソフトウェアのインストールが終了すると、システムは自動的にリブートするか、または手動でリブートするように促します。



インストールが終了すると、インストールログがファイルに保存されます。インストールログは、`/var/sadm/system/logs` ディレクトリと `/var/sadm/install/logs` ディレクトリに作成されます。

- 初期インストールの場合は、これでインストールが完了します。手順 16 に進んでください。
- Solaris ソフトウェアのアップグレードを行なっている場合は、保存されなかったローカルな変更があればそれを修正する必要があります。手順 a に進んでください。
  - a. `/a/var/sadm/system/data/upgrade_cleanup` ファイルの内容を確認して、Solaris インストールプログラムによって保存されなかったローカルな変更を修正する必要があるかどうかを判断します。
  - b. 保存されなかったローカルな変更があれば、修正します。

16 インストール時に自動リブートを選択しなかった場合は、システムをリブートします。

```
# reboot
```

#### 参考 次の段階

使用するマシンに複数のオペレーティングシステムをインストールする場合、ブートするためには、それらのオペレーティングシステムを GRUB ブートローダーに認識させる必要があります。詳細は、『Solaris のシステム管理 (基本編)』の「GRUB メニューを編集して Solaris のブート動作を変更する」を参照してください。

**注意事項** インストールやアップグレードで問題が発生する場合は、『Solaris 10 11/06 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』の付録 A 「問題発生時の解決方法 (作業)」を参照してください。



# 索引

---

## B

### BIOS

- ブートの優先順位の設定, 39
- 要件, 37

## G

GRUB、x86 システムでのインストール, 36-49

## I

IP アドレス、デフォルトルートの指定, 22

## K

kdmconfig、周辺機器の設定, 42

Kerberos、構成情報, 18

## R

Reduced Networking サポート

- サイズ, 15
- 説明, 14-16

## S

Solaris インストールプログラム, 27-49

Solaris インストールプログラム (続き)

「インストールの準備完了」画面

SPARC システム, 35

x86 システム, 48

グラフィカルユーザーインターフェース (GUI)

開始コマンド (SPARC システム), 30

開始コマンド (x86 システム), 41

説明, 10

説明, 10-12

テキストインストーラ

コンソールセッションでの開始コマンド  
(SPARC システム), 30

コンソールセッションでの開始コマンド (x86  
システム), 41

説明, 11

デスクトップセッションでの開始コマンド  
(SPARC システム), 30

デスクトップセッションでの開始コマンド  
(x86 システム), 41

メモリー要件, 11

GRUB の指示, 36-49

非大域ゾーンがインストールされているシステム  
のアップグレード

SPARC システム手順, 27-36

x86 システムの指示, 36-49

SPARC システム

インストール手順, 27-36

インストールの準備, 28

非大域ゾーンがインストールされているシステム  
のアップグレード, 27-36

stty コマンド, 25

**W**

Solaris インストールプログラムを表示するためのメモリー要件, 11

**X**

x86 システム

- BIOS 要件, 37
- GRUB 付きでインストール, 36-49
- インストール手順, 36-49
- インストールの準備, 37
- 非大域ゾーンがインストールされている場合のアップグレード, 36-49
- ブート, 39

**あ**

アップグレード

- SPARC システム, 27-36
- x86 システム, 36-49
- インストール後の作業
  - x86 システム, 49
- 非大域ゾーンがインストールされているシステム
  - SPARC システム手順, 27-36
  - x86 システムの指示, 36-49
- ポストインストール
  - SPARC システム, 36
- ログファイル, 36

**い**

インストール

- SPARC システム, 27-36
- x86 システム, 36-49
- インストール時更新 (ITU), 40
- デバイスドライバ, 40
- 必要な情報, 16-25
- インストール、GRUB 付き x86 システム, 36-49
- インストール時更新 (ITU)、インストール, 40
- インストール時のデバイス設定の変更, 42
- インストール情報のチェックリスト, 16-25
- インストールに必要な情報, 16-25

インストールに必要なメディア

- SPARC システム, 28
- x86 システム, 37
- インストールの開始
  - SPARC システム, 30
  - x86 システム, 41
- インストールの開始コマンド
  - SPARC システム, 30
  - x86 システム, 40
- インストールの準備
  - SPARC システム, 28
  - x86 システム, 37
- インストールする前に必要な情報, 16-25
- 「インストールの準備完了」画面, 35
- インストールの前提条件
  - SPARC システム, 28
  - x86 システム, 37
- インストールのための準備、インストールする前に必要な情報, 17-25
- インストール前の情報収集, 16-25

**え**

エンドユーザーシステムサポート

- サイズ, 15
- 説明, 14-16

**か**

開発者システムサポート

- サイズ, 15
- 説明, 14-16
- カスタムインストール、説明, 34

**き**

- キーボード、x86 システム用に設定, 42
- キーボード、ディスプレイ、およびポインティングデバイスの設定, 42

## く

- グラフィカルユーザーインタフェース (GUI)
  - 開始コマンド (SPARC システム), 30
  - 開始コマンド (x86 システム), 41
  - 説明, 10
  - メモリー要件, 11

## け

- 言語、インストール時の選択, 30, 43

## こ

- コアシステムサポート
  - サイズ, 15
  - 説明, 14-16

## し

- システム BIOS でのブート優先順位の設定, 39
- システムのブート
  - SPARC システム, 29
  - x86 システム, 39
- システム要件, 9-16
- 出力ファイル, アップグレードログ, 36
- シリアルコンソール, 39
- シリアルコンソールの設定, 39

## す

- スライス、説明, 9

## せ

- 全体ディストリビューション
  - サイズ, 15
  - 説明, 14-16
- 全体ディストリビューションと OEM サポート
  - サイズ, 15
  - 説明, 14-16

## そ

- ゾーン、システムのアップグレード
  - SPARC システム手順, 27-36
  - x86 システムの指示, 36-49
- ソフトウェアグループ, 15

## て

- ディスク容量、ソフトウェアグループの要件, 15
- ディスプレイ、x86 システム用に設定, 42
- テキストインストーラ
  - コンソールセッションでの開始コマンド (SPARC システム), 30
  - 説明, 11
  - デスクトップセッションでの開始コマンド (SPARC システム), 30
  - デスクトップセッションでの開始コマンド (x86 システム), 41
  - メモリー要件, 11

## 手順

- SPARC システムのインストール, 27-36
- x86 システムのインストール, 36-49
- デバイス設定、変更, 42
- デバイスドライバ, 40

## は

- パーティション、説明, 9

## ふ

- ブートの優先順位、システム BIOS の設定, 39

## ま

- マウス、x86 システム用に設定, 42

## よ

- 要件, 9-16
  - BIOS, 37

要件 (続き)

- Solaris インストールプログラムの表示, 11
- メディア
  - SPARC システム, 28
  - x86 システム, 37
- メモリー, 10

ろ

- ログファイル, アップグレードインストール, 36